

開隆堂出版「社会と情報」ユニット展開例

開隆堂出版「社会と情報」教科書では、学習する内容を9つのユニットに分けています。ユニットはどのような順番でも学習を組み立てられるようになっています。

ここでは、ユニットの組み合わせの例をご紹介します。

(基本パターン) ユニット番号順に進める



ICTを利用する際に必要となる情報モラルを最初に学習しつつ、理論と実習、難度などのバランスをとりながら学習できます。1学期は情報の基礎となる知識を身につけます。2学期は1学期の知識をいかした実習に取り組んだ後、ネットワークについて学習します。3学期はこれからの情報社会で生きるために必要な知識と考え方を学びます。

1 情報モラルを早い段階で学習する



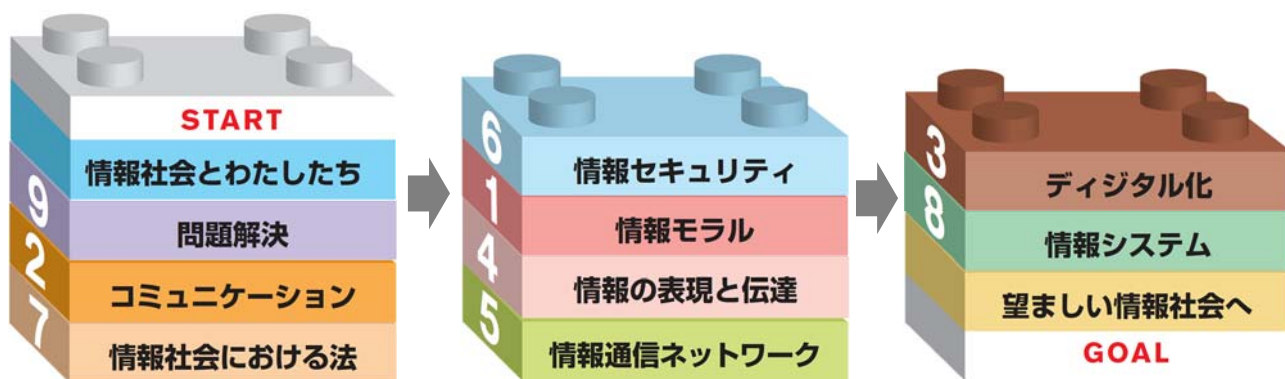
1学期には、ほとんどの生徒がスマートフォンや携帯電話を所有している現状を踏まえ、情報モラルに関する知識や態度を身につけます。2学期には、デジタル化やコミュニケーションを学習し、その知識をいかして実習でプレゼンテーションを行います。3学期には、情報通信ネットワークや情報システムなど社会と情報の関連について学びます。最後に問題解決を通して確実に情報活用能力を育みます。

2 情報のしくみを重視して学習する



1学期に情報の基本であるデジタル化について学び、情報の統合を行う実習を通してデジタルの特徴についての理解を深めます。2学期には、情報通信ネットワークのしくみについての知識を身につけ、情報を安全に利用する方法や情報モラルについて学びます。3学期には、社会において情報を適切に活用する方法について学び、問題解決の流れの学習や実習を通して情報活用能力を高めます。

3 問題解決を意識して学習を進める



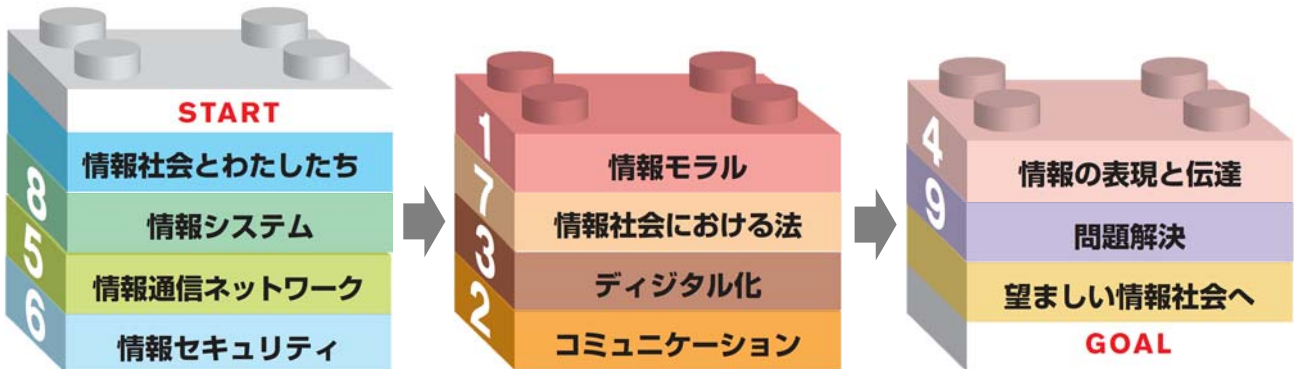
早い段階で問題解決の流れについて意識させ、以降の学習で問題解決的な視点を持てるようにします。2学期には情報を安全に正しく扱うための方法（法律やセキュリティ、モラル）を学び、適切に情報を活用できる能力を養い、実習でプレゼンテーションを行います。3学期には、これまでの学習を振り返りながらデジタル化や情報システムについて学び、社会と情報に関する確実な知識の定着を図ります。

4 実習をはじめの方に行い、その経験を元に知識を深めていく



最初に実習を行い、その経験を元にそれぞれの学習を深めていきます。また、「コミュニケーション→モラル」というように、基本となる理論をおさえた後でモラルを学習することで、科学的な根拠に基づいた態度を形成することが期待できます。

5 理論をしっかりおさえた後で、実習を最後に行う



理論を十分におさえてから実習を最後に行うことで、制作品の完成度を高められることが期待できます。1学期は情報システムやネットワークについて学習し、情報社会を支えるしくみをおさえます。2学期には情報モラルやデジタル情報など、実習に必要な知識を身につけます。

6 最初に情報社会について学び、後で情報のしくみを学ぶ



情報システムという社会的なものから、徐々に情報のしくみという科学的な内容に移ります。1学期には情報システムと、情報社会に必要なモラルや法について学びます。2学期にはコミュニケーションや問題解決の流れなど、個人が情報を活用するための資質を身につけていきます。3学期にはシステムやネットワークを支える基礎となるしくみについて学習し、理解を深めます。